ユニキャスト RIB および FIB の管理

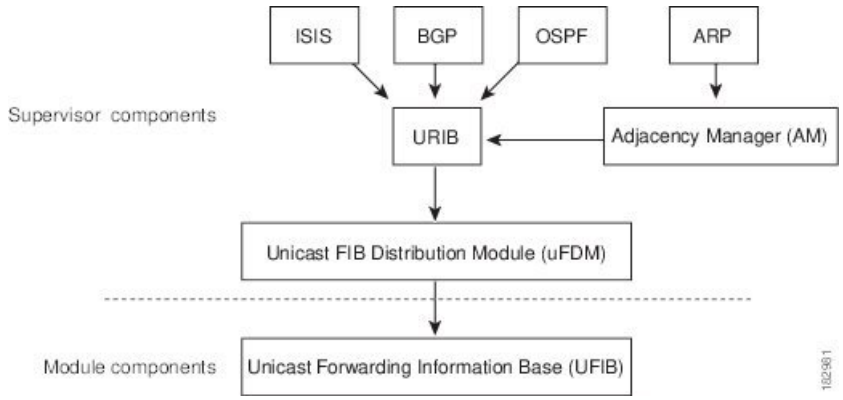
この章は、次の項で構成されています。

- ユニキャスト RIB および FIB について （1 ページ）
- ユニキャスト RIB に関する注意事項と制約事項 （2 ページ）
- ユニキャスト RIB および FIB の管理 （3 ページ）
- ユニキャスト RIB および FIB の確認 （13 ページ）
- その他の参考資料 （14 ページ）

ユニキャスト RIB および FIB について

次の図に示すように、ユニキャスト ルーティング情報ベース（IPv4 RIB および IPv6 RIB）および転送情報ベース（FIB）は、Cisco NX-OS 転送アーキテクチャの一部です。

図 *1 : CiscoNX-OS* フォワーディング アーキテクチャ



ユニキャスト RIB はアクティブなスーパーバイザ上にあります。ユニキャスト RIB は、直接接続のルート、スタティック ルート、ダイナミック ユニキャスト ルーティング プロトコルで検出されたルートを含むルーティング テーブルを維持しています。また、アドレス解決プロトコル（ARP）などの送信元から、隣接情報を収集します。ユニキャスト RIB は、ルートに最適なネクストホップを決定し、さらにユニキャスト FIB 分散モジュール（UFDM）のサービスを使用して、モジュール上のユニキャスト FIB にデータを入力します。

各ダイナミック ルーティング プロトコルは、タイム アウトしたあらゆるルートについて、ユニキャスト RIB を更新する必要があります。その後、ユニキャスト RIB はそのルートを削除し、そのルートに最適なネクスト ホップを再計算します（代わりに使用できるパスがある場合）。

レイヤ 3 整合性チェッカー

まれな事例として、各モジュールのユニキャスト RIB と FIB の間に不整合が発生することがあります。Cisco NX-OS は、レイヤ 3 整合性チェッカーをサポートします。この機能は、スーパーバイザ モジュールのユニキャスト IPv4 RIB と各インターフェイス モジュールの FIB の間で不整合を検出します。不整合には次のようなものがあります。

- 欠落したプレフィックス
- 余分なプレフィックス
- ネクストホップ アドレスの誤り
- ARP またはネイバー探索（ND）キャッシュ内の不正なレイヤ 2 リライト文字列

レイヤ 3 整合性チェッカーは、FIB のエントリと隣接マネージャ（AM）から取得した最新の隣接情報を比較し、不整合があれば記録します。次に整合性チェッカーは、ユニキャスト RIB のプレフィックスをモジュールの FIB と比較し、不整合があればログに記録します。「レイヤ 3 整合性チェッカーのトリガー」の項を参照してください。

不整合は手動で解消できます。「FIB 内の転送情報の消去」の項を参照してください。

ハードウェア制限を超えて多くのルートが学習され、**show consistency-checker forwarding ipv4** コマンドを実行した場合も、整合性の点で合格します。整合性のない状態から整合性のある状態に移行する場合も同様です。失敗として表示される場合があります。**test forwarding ipv4 inconsistency route** コマンドが再実行されるまで、この状態は終了しません。これは予期された動作です。

ユニキャスト RIB に関する注意事項と制約事項

URIB または U6RIB には、次の注意事項と制約事項が適用されます。

- 仮想ドメイン コンテキスト（VDC）では、IPv4 または IPv6 ユニキャスト ルートのメモリ リソースの制限を変更しても、変更された制限はすぐには有効になりません。

  変更された制限をアクティブにするには、**copy running-config startup-config** コマンドの後に **reload** コマンドを発行する必要があります。

  たとえば、次のいずれかのコマンドを発行した場合、新しい設定をアクティブにするには、**copy running-config startup-config** を発行し、さらにスイッチをリロードする必要があります。

  - **limit-resource u4route-mem**
  - **limit-resource u6route-mem**

（注） limit-resource に「feature pim」が構成されている場合、**limit-resource u4route-mem** プラス **limit-resource u6route-mem** の値が 1024 MB（1GB）以下であることを確認してください。

- Cisco NX-OS リリース 10.3(1)F 以降、ユニキャスト整合性チェッカは Cisco Nexus 9808 プラットフォーム スイッチでサポートされています。
  - Cisco NX-OS リリース 10.4(1)F 以降、ユニキャスト一貫性チェッカーは Cisco Nexus X98900CD-A および Cisco Nexus 9808 スイッチを搭載した X9836DM-A ライン カードでサポートされます。
- Cisco NX-OS リリース 10.4(1)F 以降、ユニキャスト一貫性チェッカーは Cisco Nexus 9804 プラットフォーム スイッチ、Cisco Nexus X98900CD-A および X9836DM-A ライン カードでサポートされます。
- Cisco NX-OSリリース 10.5(1)F 以降、レイヤ 3 ECMP ダイナミックロードバランシング（DLB）機能は、発信リンクの現在の使用状況に応じて、トラフィックを効率的にロードバランシングするためのサポートを提供します。

ユニキャスト RIB および FIB の管理

（注） Cisco IOS の CLI に慣れている場合、この機能に対応する Cisco NX-OS コマンドは通常使用する Cisco IOS コマンドと異なる場合があるので注意してください。

モジュールの FIB 情報の表示

モジュールの FIB 情報を表示するには、任意のモードで次のコマンドを使用します。

コマンド	目的
show forwarding {**ipv4** | **ipv6**} **adjacency module** *slot* 例： `switch# show forwarding ipv6 adjacency module 2`	IPv4 または IPv6 の隣接情報を表示します。
show forwarding {**ipv4** | **ipv6**} **route module** *slot* 例： `switch# show forwarding ipv6 route module 2`	IPv4 または IPv6 のルート テーブルを表示します。

ユニキャスト FIB でのロード シェアリングの設定

Open Shortest Path First（OSPF）などのダイナミック ルーティング プロトコルは、等コスト マルチパス（ECMP）によるロードシェアリングをサポートしています。ルーティング プロトコルは、そのプロトコルに設定されたメトリックに基づいて最適なルートを決定し、そのプロトコルに設定された最大数までのパスをユニキャスト RIB に組み込みます。ユニキャスト RIB は、RIB に含まれるすべてのルーティング プロトコル パスのアドミニストレーティブ ディスタンスを比較し、ルーティング プロトコルによって組み込まれたすべてのパス セットから最適なパス セットを選択します。ユニキャスト RIB は、この最適なパス セットを FIB に組み込み、フォワーディング プレーンで使用できるようにします。

フォワーディング プレーンは、ロード シェアリングのアルゴリズムを使用して、FIB に組み込まれたパスのいずれかを選択し、それを特定のデータ パケットに使用します。

（注） ロードシェアリングでは、特定のフローに含まれるすべてのパケットに対して同じパスが使用されます。フローは、ユーザが設定したロードシェアリング方式によって定義されます。たとえば、送信元/宛先のロード シェアリングを設定すると、送信元 IP アドレスと宛先 IP アドレスのペアが同じであるすべてのパケットが同じパスをたどります。

ユニキャスト FIB のロード シェアリング アルゴリズムを設定するには、グローバル コンフィギュレーション モードで次のコマンドを使用します。

手順の概要

1. **ip load-sharing address** {**destination port destination** | **source-destination** [**port source-destination]** | **source** } [**exclude-l3-proto**] **hardware lb-keyshift** *value* **lb-2nd-heir-keyshift** *value* [**universal-id** *seed*] [**rotate** *rotate*] [**concatenation**]
2. （任意） **show ip load-sharing**
3. （任意） **show routing hash** *source-addr dest-addr* [*source-port dest-port*] [**vrf** *vrf-name*]

手順の詳細

手順

	コマンドまたはアクション	目的
ステップ 1	**ip load-sharing address** {**destination port destination** | **source-destination** [**port source-destination]** | **source** } [**exclude-l3-proto**] **hardware lb-keyshift** *value* **lb-2nd-heir-keyshift** *value* [**universal-id** *seed*] [**rotate** *rotate*] [**concatenation**] 例： `ip load-sharing address source-destination port source-destination hardware lb-keyshift 1 lb-2nd-hier-keyshift 10`	データ トラフィックに対するユニキャスト FIB のロード シェアリング アルゴリズムを設定します。 （注） Cisco Nexus 9808/9804 スイッチでは、**ip load-sharing address** 構成時に **address source-destination port source-destination** オプションのみがサポートされます。

	コマンドまたはアクション	目的
		Cisco NX-OS リリース 10.3(3)F 以降では、Cisco Nexus 9600-R/RX ライン カードでのみ、**IHB_ECMP_LB_KEY_CFG** テーブルの次のパラメータをサポートするために **hardware** オプションが追加されています。 • **lb-keyshift**：ロードバランシングの **ECMP_LB_KEY_SHIFT** 値を設定します。指定できる範囲は、1 ～ 10 です。 • **lb-2nd-hier-keyshift**：ロード バランシングの **ECMP_2ND_HIER_LB_KEY_SHIFT** 値を設定します。指定できる範囲は、1 ～ 10 です。 Cisco NX-OS リリース 10.5(1)F 以降、 **exclude-l3-proto** オプションが導入されました。このオプションを使用すると、Cisco Nexus 9300-GX2 シリーズ スイッチでのネクストホップ選択時に、ECMP ハッシュから IP プロトコルを除外できます。 次のオプションは、すべての IP ロード シェアリング設定で使用できます。 • **universal-id** オプションは、ハッシュ アルゴリズムのランダム シードを設定することにより、フローをあるリンクから別のリンクにシフトします。 汎用 ID を設定する必要はありません。ユーザが設定しなかった場合は、Cisco NX-OS が汎用 ID を選択します。*universal-id* の範囲は 1 ～ 4294967295 です。 • **rotate** オプションを使用すると、ハッシュ アルゴリズムは、リンク ピッキングの選択をローテーションさせます。これは、ネットワーク内のすべてのノードが同じリンクを継続的に選択しないようにするためです。これは、ハッシュ アルゴリズムのビットパターンに影響を与えることによって機能します。このオプションは、あるリンクから別のリンクにフローをシフトし、最初の ECMP レベルからすでにロード バランシング（極性化）されているトラフィックのロードバランシングを複数のリンク間で行います。

	コマンドまたはアクション	目的
		rotate 値を指定すると、64 ビットのストリームが、循環回転でのそのビット位置から解釈されます。*rotate* 値の範囲は 1 ～ 63 で、デフォルトは 32 です。 （注） 多層レイヤ 3 トポロジでは、極性が発生する可能性があります。極性を回避するには、トポロジの各層で異なる循環ビットを使用します。 （注） ポート チャネルの rotation 値を設定するには、**port-channel load-balance src-dst ip-l4port rotate** *rotate* コマンドを使用します。このコマンドの詳細については、『*Cisco Nexus 9000 Series NX-OS Interfaces Configuration Guide*』を参照してください。 • **concatenation** オプションを使用すると、ECMP のハッシュ タグ値とポート チャネルのハッシュ タグ値がひとつに結合され、より強力な 64 ビットのハッシュを使用できるようになります。このオプションを使用しない場合、ECMP のロード バランシングおよびポート チャネルのロードバランシングを個別に制御できます。デフォルトではディセーブルになっています。
ステップ 2	（任意） **show ip load-sharing** 例： `switch(config)# show ip load-sharing address source-destination`	データ トラフィックに対するユニキャスト FIB のロード シェアリング アルゴリズムを表示します。
ステップ 3	（任意） **show routing hash** *source-addr dest-addr* [*source-port dest-port*] [**vrf** *vrf-name*] 例： `switch(config)# show routing hash 192.0.2.1 10.0.0.1`	ユニキャスト RIB とユニキャスト FIB が特定の送信元と宛先アドレスのペアに使用するルートを表示します。送信元アドレスと宛先アドレスの形式は x.x.x.x です。送信元ポートと宛先ポートの範囲は 1 ～ 65535 です。VRF 名には最大 64 文字の英数字文字列を指定します。大文字と小文字は区別されます。

例

次に、送信元/宛先ペアのために選択されたルートを表示する例を示します。

```
switch# show routing hash 10.0.0.5 192.0.0.2
Load-share parameters used for software forwarding:
```

```
load-share mode: address source-destination port source-destination
Universal-id seed: 0xe05e2e85
Hash for VRF "default"
Hashing to path *172.0.0.2 (hash: 0x0e), for route:
```

次に、**show ip load-sharing** コマンドの出力例を示します。

```
switch(config)# show ip load-sharing
IPv4/IPv6 ECMP load sharing:
Universal-id (Random Seed): 1913447906
Load-share mode : address source
Exclude L3 proto from ECMP hashing : Enabled
Rotate: 32
switch(config)#
```

ダイナミック ロード バランシング

「ダイナミック ロード バランシング」の項の内容は、「ユニキャスト *RIB* および *FIB* の管理」の章から、10.5(3)F 以降の『Cisco Nexus 9000 シリーズ NX-OS ユニキャスト ルーティング構成ガイド』にある新しい章、「ダイナミック ロード バランシングの構成」に移動されました。具体的には、「CloudScale スイッチの動的ロード バランシング」セクションです。

ルーティング情報と隣接情報の表示

ルーティング情報と隣接情報を表示するには、任意のモードで次のコマンドを使用します。

コマンド	目的
show {**ip** | **ipv6**} **route** [*route-type* | **interface** *interface-type number* | **next-hop**] `switch# show ip route`	ユニキャスト ルート テーブルを表示します。*route-type* 引数には、1 つのルート プレフィックス、ダイレクト、スタティック、またはダイナミック ルーティング プロトコルを指定できます。**?** コマンドを使用すると、サポートされているインターフェイスが表示されます。

コマンド	目的
show {**ip** | **ipv6**} **adjacency** [*prefix* | *interface-type number* [**summary**] | **non-best**] [**detail**] [**vrf** *vrf-id*] 例： `switch# show ip adjacency`	隣接関係テーブルを表示します。引数の範囲は次のとおりです。 • *prefix*：任意の IPv4、または IPv6 プレフィックスアドレス。 • *interface-type number*：**?** コマンドを使用して、サポートされるインターフェイスを表示します。 • *vrf-id*：最大 64 文字の英数字文字列を指定します。大文字と小文字は区別されます。
show {**ip** | **ipv6**} **routing** [*route-type* | **interface** *interface-type number* | **next-hop** | **recursive-next-hop** | **summary** | **updated** {**since** | **until**} *time*] 例： `switch# show routing summary`	ユニキャスト ルート テーブルを表示します。*route-type* 引数には、1 つのルート プレフィックス、ダイレクト、スタティック、またはダイナミック ルーティング プロトコルを指定できます。**?** コマンドを使用すると、サポートされているインターフェイスが表示されます。

次に、ユニキャスト ルート テーブルを表示する例を示します。

```
switch# show ip route
IP Route Table for Context "default"
'*' denotes best ucast next-hop '**' denotes best mcast next-hop
'[x/y]' denotes [preference/metric]

0.0.0.0/0, 1 ucast next-hops, 0 mcast next-hops
   *via 10.1.1.1, mgmt0, [1/0], 5d21h, static
0.0.0.0/32, 1 ucast next-hops, 0 mcast next-hops
   *via Null0, [220/0], 1w6d, local, discard
10.1.0.0/22, 1 ucast next-hops, 0 mcast next-hops, attached
   *via 10.1.1.55, mgmt0, [0/0], 5d21h, direct
10.1.0.0/32, 1 ucast next-hops, 0 mcast next-hops, attached
   *via 10.1.0.0, Null0, [0/0], 5d21h, local
10.1.1.1/32, 1 ucast next-hops, 0 mcast next-hops, attached
   *via 10.1.1.1, mgmt0, [2/0], 5d16h, am
10.1.1.55/32, 1 ucast next-hops, 0 mcast next-hops, attached
   *via 10.1.1.55, mgmt0, [0/0], 5d21h, local
10.1.1.253/32, 1 ucast next-hops, 0 mcast next-hops, attached
   *via 10.1.1.253, mgmt0, [2/0], 5d20h, am
10.1.3.255/32, 1 ucast next-hops, 0 mcast next-hops, attached
   *via 10.1.3.255, mgmt0, [0/0], 5d21h, local
```

```
255.255.255.255/32, 1 ucast next-hops, 0 mcast next-hops
   *via Eth Inband Port, [0/0], 1w6d, local
```

次に、隣接関係情報を表示する例を示します。

```
switch# show ip adjacency
IP Adjacency Table for context default
Total number of entries: 2
Address         Age         MAC Address       Pref  Source   Interface    Best
10.1.1.1        02:20:54    00e0.b06a.71eb    50    arp      mgmt0        Yes
10.1.1.253      00:06:27    0014.5e0b.81d1    50    arp      mgmt0        Yes
```

レイヤ 3 整合性チェッカーのトリガー

レイヤ 3 整合性チェッカーを手動でトリガーできます。

レイヤ 3 整合性チェッカーを手動でトリガーにするには、グローバルコンフィギュレーションモードで次のコマンドを使用します。

手順の概要

1. **test forwarding** [**ipv4** | **ipv6**] [**unicast**] **inconsistency** [**vrf** *vrf-name*] [**module** {*slot* | **all**}]
2. **test forwarding** [**ipv4** | **ipv6**] [**unicast**] **inconsistency** [**vrf** *vrf-name*] [**module** {*slot* | **all**}] **stop**
3. **show forwarding** [**ipv4** | **ipv6**] [**unicast**] **inconsistency** [**vrf***vrf-name*] [**module** {*slot* | **all**}]
4. **show consistency-checker forwarding unicast**

手順の詳細

手順

	コマンドまたはアクション	目的
ステップ 1	**test forwarding** [**ipv4** | **ipv6**] [**unicast**] **inconsistency** [**vrf** *vrf-name*] [**module** {*slot* | **all**}] 例： `switch(config)# test forwarding inconsistency`	レイヤ 3 整合性チェックを開始します。*vrf-name* には最大 64 文字の英数字文字列を指定します。大文字と-小文字は区別されます。*slot* の範囲は 1 ～ 26 です。
ステップ 2	**test forwarding** [**ipv4** | **ipv6**] [**unicast**] **inconsistency** [**vrf** *vrf-name*] [**module** {*slot* | **all**}] **stop** 例： `switch(config)# test forwarding inconsistency stop`	レイヤ 3 整合性チェックを停止します。*vrf-name* には最大 64 文字の英数字文字列を指定します。大文字と小文字は区別されます。*slot* の範囲は 1 ～ 26 です。
ステップ 3	**show forwarding** [**ipv4** | **ipv6**] [**unicast**] **inconsistency** [**vrf***vrf-name*] [**module** {*slot* | **all**}] 例： `switch(config)# show forwarding inconsistency`	レイヤ 3 整合性チェックの結果を表示します。*vrf-name* には最大 64 文字の英数字文字列を指定します。大文字と-小文字は区別されます。*slot* の範囲は 1 ～ 26 です。

	コマンドまたはアクション	目的
ステップ 4	**show consistency-checker forwarding unicast** 例： `switch(config)# show consistency-checker forwarding unicast`	ユニキャストルータのレイヤ3整合性チェックの結果を表示します。

FIB 内の転送情報の消去

FIB 内の 1 つまたは複数のエントリを消去できます。FIB のエントリを消去しても、ユニキャスト RIB に影響はありません。

⚠

注意 **clear forwarding** コマンドを実行すると、デバイス上の転送が中断されます。

FIB 内のエントリ（レイヤ 3 の不整合を含む）を消去するには、任意のモードで次のコマンドを使用します。

コマンド	目的
clear forwarding{**ipv4** | **ipv6**} **route** {***** | *prefix*} [**vrf** *vrf-name*] **module** {*slot* | **all**} 例： `switch# clear forwarding ipv4 route * module 1`	FIB から 1 つまたは複数のエントリを消去します。ルートのオプションは次のとおりです。 • *****：すべてのルート。 • *prefix*：任意の IP または IPv6 プレフィックス *vrf-name* には最大 64 文字の英数字文字列を指定します。大文字と-小文字は区別されます。*slot* の範囲は 1 ～ 26 です。

ユニキャスト RIB の最大ルート数の設定

ルーティング テーブルで許可されている最大ルート数を設定できます。

手順の概要

1. **configure terminal**
2. **vrf context** *vrf-name*
3. **address-family {ipv4 | ipv6} unicast**
4. **maximum routes** *max-routes* [*threshold* [**reinstall** *threshold*] | **warning -only**]

5. （任意） **copy running-config startup-config**

手順の詳細

手順

	コマンドまたはアクション	目的

ステップ 1	**configure terminal**
	例：
	`switch# configure terminal`
	`switch(config)#`
		グローバル コンフィギュレーション モードを開始します。

ステップ 2	**vrf context** *vrf-name*
	例：
	`switch(config)# vrf context management2`
	`switch(config-vrf)#`
		VRF を作成し、VRF設定モードを開始します。

ステップ 3	**address-family {ipv4 | ipv6} unicast**
	例：
	`switch(config-vrf)# address-family ipv4 unicast`
	`switch(config-vrf-af-ipv4)`
		アドレス ファミリ コンフィギュレーション モードを開始します。

ステップ 4	**maximum routes** *max-routes* [*threshold* [**reinstall** *threshold*] | **warning -only**] 例： `switch(config-vrf-af-ipv4)# maximum routes 300000`	ルーティングテーブルで許可される最大ルート数を設定します。範囲は 1 ～ 4294967295 です。 次の項目を任意で指定できます。 • *threshold*：警告メッセージをトリガーする最大ルート数のパーセンテージ。範囲は 1 ～ 100 です。 • **warning-only**—ルートの最大数を超えた場合に警告メッセージを記録します。 • **reinstall** *threshold*：最大ルート数の上限を超過したために拒否された以前のルートを再インストールし、それらを再インストールするしきい値を指定します。しきい値の範囲は 1 ～ 100 です。
ステップ 5	（任意） **copy running-config startup-config** 例： `switch(config-vrf-af-ipv4)# copy running-config startup-config`	この設定変更を保存します。

ルートのメモリ要件の見積もり

一連のルートおよびネクストホップ アドレスが使用するメモリを見積もることができます。

ルートのメモリ要件を見積もるには、任意のモードで次のコマンドを使用します。

コマンド	目的
show routing {**ipv6**} **memory estimate routes** *num-routes* **next-hops** *num-nexthops* 例： `switch# show routing memory estimate routes 5000 next-hops 2`	ルートのメモリ要件を表示します。*num-routes* の範囲は 1000 ～ 1000000 です。*num-nexthops* の範囲は 1 ～ 16 です。

ユニキャスト RIB 内のルートの消去

ユニキャスト RIB から 1 つまたは複数のルートを消去できます。

⚠

注意 * キーワードは、ルーティングに深刻な悪影響をもたらします。

ユニキャスト RIB 内の 1 つ以上のエントリを消去するには、任意のコンフィギュレーションモードで次のコマンドを使用します。

コマンド	目的
clear {**ip** | **ip4** | **ipv6**} **route** {***** | {*route* | *prefix/length*} [*next-hop interface*]} [**vrf** *vrf-name*] 例： `switch(config)# clear ip route 10.2.2.2`	ユニキャスト RIB とすべてのモジュール FIB から 1 つまたは複数のルートを消去します。ルートのオプションは次のとおりです。 • *****：すべてのルート。 • *route*：個々の IP または IPv6 ルート。 • *prefix/length*：任意の IP または IPv6 プレフィックス • *next-hop*：ネクストホップ アドレス。 • *interface*：ネクストホップアドレスに到達するためのインターフェイス *vrf-name* には最大 64 文字の英数字文字列を指定します。大文字と小文字は区別されます。

コマンド	目的
clear routing [**multicast** | **unicast**] [**ip** | **ip4** | **ipv6**] {***** | {*route* | *prefix/length*} [*next-hop interface*]} [**vrf** *vrf-name*] 例： `switch(config)# clear routing ip 10.2.2.2`	ユニキャスト RIB から 1 つまたは複数のルートを消去します。ルートのオプションは次のとおりです。 • *****：すべてのルート。 • *route*：個々の IP または IPv6 ルート。 • *prefix*/*length*：任意の IP または IPv6 プレフィックス • *next-hop*：ネスクトホップ アドレス。 • *interface*：ネスクトホップアドレスに到達するためのインターフェイス *vrf-name* には最大 64 文字の英数字文字列を指定します。大文字と小文字は区別されます。

ユニキャスト RIB および FIB の確認

ユニキャスト RIB および FIB の設定情報を表示するには、次のいずれかの作業を行います。

コマンド	目的
show forwarding adjacency	モジュールの隣接関係テーブルを表示します。
show forwarding distribution {**clients** | **fib-state**}	FIB の分散情報を表示します。
show forwarding interfaces module *slot*	モジュールの FIB 情報を表示します。
show forwarding {**ip** | **ipv4** | **ipv6**} **route**	FIB 内のルートを表示します。
show {**ip** | **ipv6**} **adjacency**	隣接関係テーブルを表示します。
show {**ip** | **ipv6**} **route**	ユニキャスト RIB から受け取った の IPv4 または IPv6 ルートを表示します。
show routing	ユニキャスト RIB から受け取ったルートを表示します。

コマンド	目的
show system internal access-list dest-miss stats	宛先の FIB ルートがないためにドロップされたパケットの統計情報を表示します。DEST MISS とも呼ばれます。出力には、DEST MISS カウンタの増分が表示されます。 （注） Cisco NX-OS リリース 10.1(1) 以降、この機能は Cisco Nexus 9300-FX3 プラットフォーム スイッチでサポートされます。

その他の参考資料

ユニキャスト RIB および FIB の管理に関連する詳細情報については、次の項を参照してください。

- 関連資料

関連資料

関連項目	マニュアル タイトル
EEM の設定	『Cisco Nexus 9000 シリーズ NX-OS システム管理コンフィギュレーション ガイド』

翻訳について
このドキュメントは、米国シスコ発行ドキュメントの参考和訳です。リンク情報につきましては、日本語版掲載時点で、英語版にアップデートがあり、リンク先のページが移動/変更されている場合がありますことをご了承ください。あくまでも参考和訳となりますので、正式な内容については米国サイトのドキュメントを参照ください。